

経営比較分析表（平成29年度決算）

広島県 安芸高田市

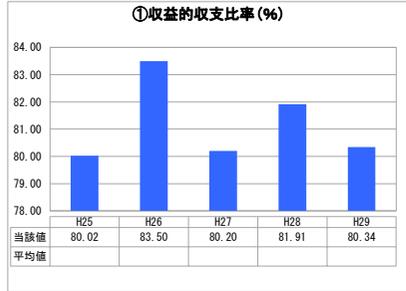
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	19.54	89.00	3,348

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
29,278	537.75	54.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,665	2.71	2,090.41

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



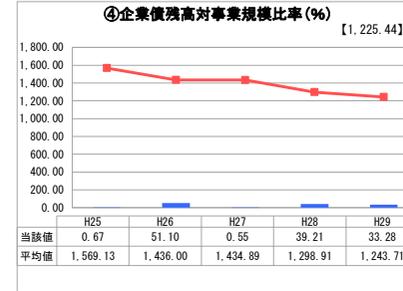
「単年度の収支」



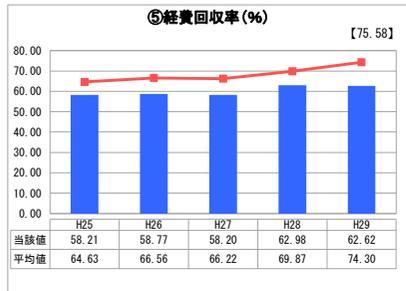
「累積欠損」



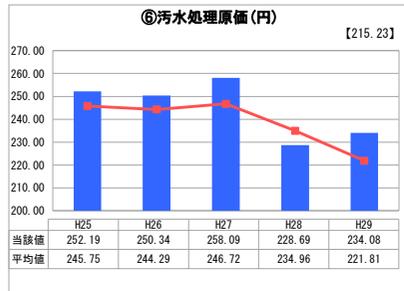
「支払能力」



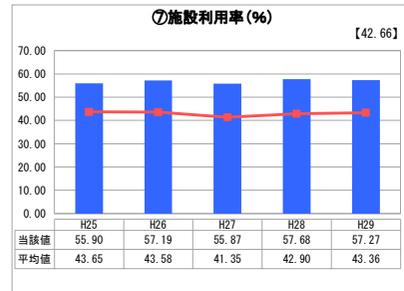
「債務残高」



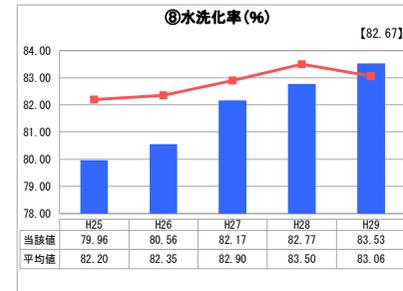
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

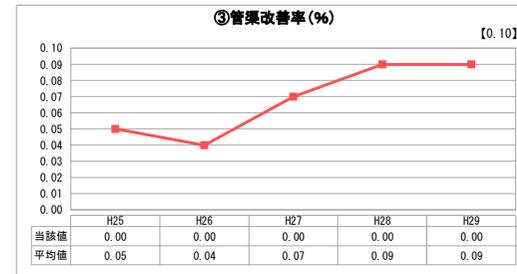
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

単年度の収支を表す「①収益的収支比率」は80.34%とこれまでに続き80%台前半を推移している。経費を使用料でどの程度賄えているかを表した「⑤経費回収率」や1㎡当たりの処理に要した費用を示す「⑥汚水処理原価」また、施設の一日の処理能力に対する平均処理水量の割合を示した「⑦施設利用率」は、処理区域内人口の減少と新規加入などとのバランスから大きな増加はなく横ばいに推移している。

「⑤経費回収率」については全国平均・類似団体より下回っていることから更なる加入促進、適正な使用料の確保が必要で、「⑥汚水処理原価」については一時期より20円程度下げていることから引き続き経費削減に努めいくことが必要となる。

「⑦施設利用率」については、57%と高くはないものの類似団体・全国平均よりは高い値であり、引き続き率の向上に努めていく。

処理区内で水洗化している方の割合を示す「⑧水洗化率」は、83.53%と全国平均値よりは高い値にあるが、これは水洗化率の分母となる現在処理区内人口の減少（空家の増加）が要因と考えられる。

2. 老朽化の状況について

平成6年度から供用を開始し、向原浄化センターは供用開始後23年を経過している。当施設は、長寿命化計画を策定し平成29年度から平成32年度の4年間で対策事業を実施していく。他の地区・施設についても施設の老朽化や耐用年数を考慮し、地区ごとにストックマネジメント計画を策定して計画的な更新を実施していく。

全体総括

平成28年度から年次更新している経営戦略から経営状況を把握し、事業の継続を目的として効率性・健全性を高めていく。

また、加入促進による水洗化率の向上や使用料改定による収入の確保に努めていく。施設については老朽化する施設や機器を維持管理面からの視点を併せ計画的かつ効率的な更新を実施していく必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。